



# たかまる通信

第19号 2012.8.20  
討議資料

■発行/福岡たかまる後援会 TEL0952-20-0111

天は自ら  
助くるものを助く

これは、英国の作家サミュエル・スマイルズが「自助論」で述べた言葉です。地元を回ると、そこには額に汗して頑張っておられる方々がたくさんいます。今の政治は、そういった方々の思いに応えているでしょうか。

社会保障制度を考える上でも不公平感がないかという視点は大事です。また、既得権益で一部の人が潤っているような社会を改め、真に頑張っている人が報われる社会を目指さなければなりません。

# 私たちが忘れてはならないこと

よく「自民党と民主党の違いは何ですか?」  
という質問を受けます。

私は、「努力をした者が報われる社会」、「正直者が馬鹿を見ない社会」を目指すことが自民党の保守的な考え方であると思います。

民主党政権になって3年間で、生活保護支給費が2.7兆円から3.5兆円に伸びました。もちろん、生活保護者の多くは、高齢者であったり、慢性的な持病に悩まされていたり、母子家庭であったりというところが多く、そういった方々への支給は必要です。

しかし、一方でこのところ急速に増えてきているのは、就労可能な若い世代の申請者が増加しているということです。

東京都区部の生活保護費(生活扶助+住宅扶助の上限)は標準3人世帯で241,970円、母子世帯で220,220円もあります。他方、東京都の最低賃金は時給840円ですから、パートなど1日8時間、月に20日間働いても134,400円にしかありません。

一生懸命働いて得られる金額よりも生活保護費が大きくなると、勤労意欲が減退して

しまいます。支給対象を精査し、働ける方については就労を促していき、家族で可能な限り支えていただく必要があります。また、空室があれば公営住宅などへの入居を促進し、住宅扶助という現金給付から現物を給付する仕組みに変えていくことも検討すべきでしょう。

政治がやるべきことは、手当を増やすことではなく、仕事を増やすことです。今は経済状況が厳しいですが、経済を好転させ雇用を創ることで、一人でも多くの人が公費にたよらなくても自立して生活できるようにしなければなりません。

年金についても同じことがいえます。国民年金については、満額をもらって月に65,541円です。何らかの事情で40年間を通して保険料を納められなかった方については支給が減額されますから、多くの方が低年金で苦しい生活を余儀なくされています。

低年金者対策は大きなテーマですが、苦しい生活の中からも将来に備えて保険料を納め続けてきた人から見て、不公平感がある制度

ではいけません。

若い人を中心に年金保険料の未納が広がっています。月額14,980円(24年度)の保険料を40年間払い続けてもらえる65,541円に対して、高齢者単身世帯の生活保護費が東京23区では134,520円(生活扶助80,820円、住宅扶助53,700円)と2倍以上になるのではバランスに欠けると思います。

若い人の中には「年金保険料払わなくても、将来生活保護を受ければいいじゃないか」と支払い能力があるにもかかわらず意図的に保険料を納付しない人が出てきています。これでは秩序が保たれません。

このたび、税と社会保障に関して3党合意がなされましたが、私たちが民主党の掲げる税方式による最低保障年金ではなく、現在の社会保険方式の年金制度にこだわったのも、民主党が提唱する制度では別途7%以上消費税を引き上げる必要があること、これまで保険料を納めてきた方との不公平感が生じること、それをなくすためには移行期間が40年かかることがあげられます。

私は、政治の世界に入るときに橋本龍太郎元首相から「政治は弱者のためにある」と言われました。それは、自由競争の下では強い者は生き残るが、弱い人の生活が成り立たなくなる。だから、政治の存在意義は弱い立場の人に光を当て、すべての人が生き甲斐を感じられる社会をつくることにあるというものです。

しかし、それはすべての人が自分のできる範囲で社会生活を行うことが前提となります。能力があるのに、それを行使しない人が増えてきています。これでは、モラル・ハザードになってしまいます。

自分のことは自分で行う「自助」がまずある。それを、家族や地域が「共助」で補う。それでも賄えないことを「公助」という行政サービスによってカバーする。このバランスが大事だと思います。

これまで国の成長を支え、他国からも尊敬されてきた日本人特有の勤勉さや実直さが失われるようなことがあってはなりません。多くの人が勤労の喜びを感じ、家族や地域生活を大切に。皆が日本人特有の精神を大切に、この国に生まれて良かったと思えるような国作りを行っていききたいと思えます。

## 2013年の参議院佐賀選挙区の候補者が決まりました

参議院議員の任期は6年と長いため、3年ごとに定数242の半数の121議席を改選します。

私の任期はあと4年あまりありますが、来年7月にはもう一方の参議院選挙が行われます。

これまで22回参議院選挙が行われましたが、佐賀県において自民党が黒星を喫したのは第21回の参議院選挙のみです。来年は、その敗北から6年後の選挙にあたるため、議席奪還が我が自民党にとって至上命題となっています。

自民党佐賀県連では公募によって候補者を選ぶことを決定。そして、オープンな選考を行うこと、挙党一致体制が組めるようにすることに留意し、22名からなる選考委員会を立ち上げ、論文・書類選考、面接を実施しました。

応募者の方々はどなたも甲乙つけがたい優秀な方ばかりでしたが、総合点数で一位をとった山下雄平さん(32歳・当時)を選考委員会として推挙し、県連の総務会でも了承いただきました。

山下さんは、時事通信社や日本経済新聞社の記者をされていて政治的見識も深く、若さによる情熱、清新さを持ちあわせていると思います。

唐津市の呼子町の出身ですが、これから県内各地を飛び回ります。いろいろなことをご指導いただき、育てていただければと思います。



### 山下雄平(33歳)

1979年8月 佐賀県唐津市生まれ

1992年3月 呼子町立呼子小学校卒業

1998年3月 弘学館中学・高校卒業

2003年3月 慶應義塾大学法学部政治学科卒業

(この間、約1年英国ウォーリック大学に留学)

2003年4月 時事通信社入社(内政部)

2007年11月 日本経済新聞社入社(政治部)

(この間、自民・民主の政調会長番記者、首相官邸担当などを勤める)

2012年2月 日本経済新聞社を退社



谷垣総裁を囲んで



# 行政監視委員長としての使命

昨年の10月20日から参議院行政監視委員長を拝命しています。

「行政監視委員会」は参議院に平成10年に設けられた委員会で、国権の最高機関である国会が行政(政府)を恒常的に監視することを目的としています。

憲法に「すべて公務員は(国民)全体の奉仕者であつて、一部の奉仕者ではない」とありますが、天下一など、こうした精神に反することが行われていないか。また行政が法律を誠実に執行しているのかを審議する大切な役割を担っています。

ほかにも、行政運営全般に関してテーマを決めて調査を行います。今国会では、大阪都構想などを受け「行政改革と行政の役割分担」をテーマに3回に及び参考人質疑を行いました。

古川貞二郎元内閣官房副長官、堺屋太一元経済企画庁長官、井戸敏三兵庫知事、浅野史郎元宮城県知事、橋本大二郎元高知県知事、ほか有識者や基礎自治体トップなどから行政機関のあり方や、国と地方のあり方に関して大変示唆に富む話の数々をいただきました。



また、羽田空港の管制や、放射線医療総合研究所などの視察を通じて、行政の現場を見る活動も行ってきました。

とても大切な役割を担った委員会です。その職責の重さをかみしめて委員会運営に努めていきたいと思えます。馴染みのない名前でしょうが、国会ではこのような機能も担っていることを是非ご理解いただきたいと思います。



# 青年局沖縄研修

私は、自民党で小泉進次郎青年局長のもと、青年局長を務めています。

7月24日から26日まで、青年局主催の沖縄研修に参加しました。

沖縄は、日本文化を礎に独自の琉球文化を構築してきました。1945年の沖縄戦では住民の4人に1人が亡くなりました。その沖縄に、在日米軍専用施設の4分の3が駐留しているという現実があります。

普天間飛行場移設の問題、オスプレイ配備の問題が取りざたされていますが、正しい歴史認識、現状認識がなければ前には進めません。

初日には、平和祈念公園、ひめゆりの塔に行きました。

平和祈念公園には沖縄戦などで亡くなられた国内外の20万人あまりが、ひめゆ



平和祈念公園にて献花(小泉青年局長)

りの塔には戦場をさまよい命を落とした227名の学徒と教師が祀られています。祖国のために命を落とした若い人たちのことを考えると、涙が流れてきます。

高良倉吉・琉球大教授から、沖縄の歴史について講演していただきました。

2日目は、米軍普天間飛行場、嘉手納基地、キャンプシユワブ内辺野古地区の普天間移設予定地を視察しました。

普天間飛行場の周辺は住宅や教育機関が密集していて、いかに危険であるのかが実感できます。また、嘉手納基地は極東防衛の拠点ですが、戦闘機の騒音などに悩まされています。辺野古の美しい海を埋め立てることと環境維持との両立も課題です。

現地に行けば、切実な思いの数々を実感できます。普天間飛行場のある宜野湾市の佐喜間市長の話も伺いました。

最終日は、那覇基地内にある航空自衛隊南西航空混成団に行きました。ここ数年、中国機に対してのスクランブル発進が急増しています。視察中も、スクランブルでF15が2機飛び立ちました。要請から5分以内に離陸できるように常に待機されているそうです。自国の

ことは自分たちで守るという気概を感じました。

石垣市の中山市長からは、尖閣問題について講演を聞きました。歴史的にも日本固有の領土であることが良く

理解できました。実効支配を強めることなど、毅然とした対応が求められます。

佐賀からも、5名の青年局員に参加いただきました。とても有意義な研修でした。



佐賀県連から参加された方々と

- 県連青年局長 宮原真一さん(佐賀県議)
- 青年局広報部長 服巻稔幸さん(佐賀県議)
- 青年局組織副部長 東 真生さん(伊万里市議)
- 稲富雅和さん(鹿島市議)
- 古川裕紀さん(神崎市議)



那覇基地内での説明風景

# IWC(国際捕鯨委員会) 総会に出席して

7月1日から6日  
まで、「IWC(国際  
捕鯨委員会)総会」  
に出席するため、開  
催国のパナマに行っ  
てきました。



鯨の乱獲による  
減少を受けて、IWC  
は1948年に鯨資源を持続的に利用する  
ことを目的に設立されました。

ところが、鯨の捕獲そのものを反対する勢  
力が増加し、現在は捕鯨の是非が争われるよ  
うになっています。現在89カ国が加盟してい  
ますが、日本を中心とする持続的利用支持国  
が39カ国、アメリカ、欧州、豪州などの反捕鯨  
国が50カ国という状況にあります。

縄文時代にはすでに鯨を食べていたという  
ことが遺跡からも証明されているように、海  
で囲まれた我が国は古くから貴重なタンパク  
源として鯨をいただいできました。そして、肉

だけでなく内蔵、皮、骨まですべてを捨てるこ  
となく利用する文化を構築してきました。

佐賀県は、小川島が屈指の漁場であったり、  
呼子が近代捕鯨の拠点となったり、その他の  
地区でも密接に鯨と結びついてきました。現  
在でも佐賀は長崎とともに鯨をよく食べる地  
域として知られています。

IWCにおいて捕獲を制限することで、か  
つて8万頭あまりといわれていた南極海のミ  
ンククジラは76万頭にも回復してきていま  
す。鯨は海の中で生態系の頂点に位置するた  
め、天敵がいません。現在、世界中の年間漁獲  
量が約9千万トンとされるのに対して、世界  
中で鯨が1年間に餌として食べる海洋生物が  
約5億トンと人間が食べる量の5〜6倍にも  
なることを考えると、鯨が増え続けることは  
他の水産資源が大きく減少する要因にもなり  
ます。

1982年に商業捕鯨の一時停止が決定さ  
れ、それ以降日本は鯨類資源の動向を解明す  
るために調査捕鯨を行っています。科学的研  
究のための捕獲はIWCでも認められてお  
り、日本の調査は学術的にも高い評価を受け  
ています。そして捕獲した鯨は、調査後には

できる限り利用することが条約でも定めら  
れているので、鯨肉を販売し、その販売益を調  
査費用に充てています。

近年、シーシエパードによる妨害活動で乗  
組員が危険にさらされ、またそれに伴い計画  
通りの捕獲が行えないため、調査費の捻出も  
できず、鯨肉も高騰してしまう悪循環に陥っ  
ています。

総会では、日本はシーシエパードの妨害活  
動をビデオなどで示し、旗国や寄港国など  
に対して適切な対応を求めました。いかなる個  
価値観の違いも、暴力的手段は正当化されるも  
のではありません。

今回のIWC総  
会では、日本から沿  
岸捕鯨再開を提案  
しましたが、その反  
応は思った以上に  
厳しいものでした。  
また、韓国が調査捕  
鯨を開始する強い  
決意を示したこと  
も、大きな波紋を呼  
びました。



各国コミッショナーと意見を交わしました



会議に出席して私が感じたことは、持続的  
 利用支持の仲間の国が反捕鯨国に切り崩され  
 つつあるということです。会議の間には、多  
 くの小国のコミッショナーの方々と意見交換  
 しました。日本のODAなどがピークの半分  
 以下に落ち込む一方で、他国の攻勢は強まっ  
 ています。今回日本を支持してくれた国々か  
 らも「いつまで日本を支持し続けられるか自  
 信がない」との胸の内を明かす人が何人もい  
 ました。

自らの文化を主張し、その文化を守るとい  
 う毅然とした姿勢と、外交力の強化が必要で  
 あることを痛感しました。



民主党の岡本充功代議士と国会議員2名の参加でした

## フォトアルバム



小泉進次郎青年局長と被災地視察  
 岩手県大槌町の仮設住宅で被災者の皆さんの  
 切実な声を聞きました



宮内庁主催の鴨猟にてく鴨を刺激しないよ  
 う、ペーजूの帽子とコートを着用し叉手網（さ  
 であみ）で野生の鴨を捕らえます>



天皇陛下より春の園遊会に  
 お招き頂きました



嘉瀬川ダム竣工式にて



有明海再生に向けた農林水産大臣と  
 佐賀県関係者との意見交換会



県境フェスティバル天建寺大綱引きで  
 佐賀県側で綱引きしました



西九州自動車道唐津IC～  
 唐津千々賀山田IC間開通式にて



本年も鳥栖山笠にて本通りの山に  
 のせて頂きました



自民党多久支部で社会保障制度に  
 関して国政報告をしました

## おわりに

2009年の総選挙、私は衆議院の佐賀1区から出馬し負けました。

今でもあのときのことはよく夢に見ます。私の力が足りなかったから負けたのですが、民主党が提示したバラ色のマニフェストは悉く反故にされてしまっている現状を見ると、悔しい思いがします。

状況が変わって、当初の目論見通り行かないことがあることは分かります。しかし、これほどまでに何事もし崩的に物事を進めていけば、国民の判断によって政権運営をするという民主主義の根幹に関わります。

私たちは、早期に解散に持ち込み、再度各党が示した公約に基づいて政治を行うべきだと思います。一度リセットしなければなりません。

その際、民主党の批判ではなく、自民党は何をするのかということを経営として打ち出していく必要があります。そこで大切なことは、苦しくても実直でなければならないということです。政治不信は頂点にまで達しています。票ほしさに、人気取りの政策に走れば民主党と同じだと見なされます。国家財政を考えれば、何でもできるということはありません。地味でも、考えに考え抜いた案を示していきます。

骨格はできています。これに肉付けをして、再度自民党が政権を任せさせていただけるよう、私も参議院側から一生懸命汗をかいていきたいと思えます。

## たかまるサポーターを募集しています!

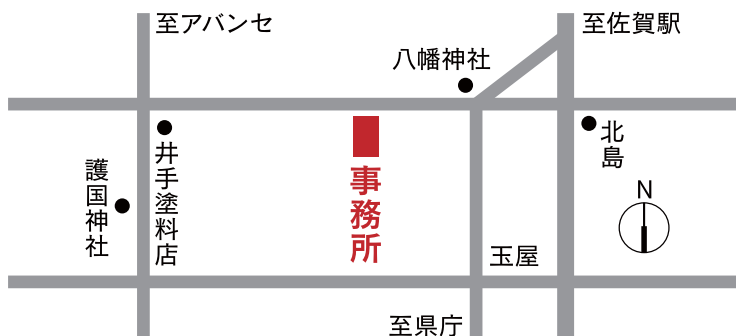
政治とカネの問題が取りざたされる中、私の事務所でも経費節減に努めています。それでも、政治活動にはお金がかかります。そんな私の政治活動をサポートしていただける方を募集しています。年間で1口2千円から(千円単位)お願いさせていただいています。皆様の暖かいお気持ちで、福岡たかまるを育てて下さい。お力添えをよろしくお願いいたします。

郵便振込

口座記号番号: 01700-2-76522  
口座名義: たかまろう21

※専用の振込用紙も用意しています。  
事務所にご一報頂ければお届けします。

## 福岡たかまる事務所



[佐賀事務所]

〒840-0826 佐賀市白山一丁目4-18

**TEL 0952-20-0111**  
**FAX 0952-20-0666**

[国会事務所]

〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1  
参議院議員会館919号室

**TEL 03-6550-0919**  
**FAX 03-6551-0919**

ブログ毎日更新中

[www.takamaro.jp](http://www.takamaro.jp)